

2011年の年明けの政界は混沌としている。昨年は新政権誕生に日本全体が希望に満ちていたが、1年経たずして国民の希望が見事に砕かれてしまった。先の代表選の最後の演説では「私には夢があります」と小沢氏、菅氏双方が主張した。

現在の双方の公式サイトを見比べてもその具体的内容は歴然としているだろう。代議士を含む民主党員およびサポーターの選択基準は何だったのだろうか。政治家としての潔癖さか、政治家としての資質か。

検察審査会制度の陥穽を報せず、代表選の選挙中に一候補者を犯罪者扱いに報道し国民を誘導したマスコミの責任も重い。「マスメディアの最大の使命は、国民の知る権利への奉仕と公権力の監視だ」というのであれば、その機能をしっかり果たしてもらいたい。ジャーナリズム精神を論ずるときに日本のマスコミよりWikiLeaksに共感してしまう状況をどのように認識しているのだろうか。

執筆時点では内閣改造となるか政界再編となるかは混沌としているが、少なくとも首相交代は避けられないであろう。能力のない首相に国民のいのちを預けるのか、回転ドアの首相交代の方がよりマシか、国民の選択はいかがであろうか。

政治主導であれば、各省庁で政治家と官僚の信頼関係を築かなければ政策の実行は不可能である。そのためには3～4年間は政務3役は交代すべきではない。内閣も同様である。次期内閣は3年以上続く首相の元で安定運営をしてほしい。

政局は流動的であるが、本年の建築界の面白い話題として建築基本法制定が挙げられる。P2～3の馬淵国土交通省大臣のインタビュー

建築基本法元年、建築界は一つになって国民に提言を

江原幸吉

では、今年のある時期に建築基本法制定と建築関連法の改正のロードマップが示される予定である。先の「建築基準法見直し検討会」でも示されたように建築基準法の抜本的見直しは避けられない課題であり、それを具体化させる機会になる。

現在各団体で建築基本法制定に向けて具体的な検討が始まっていると思われるが、建築界全体でまとまって一つの法案を提示してほしい。これまでの前政権の審議会や検討会のように、それぞれの団体が勝手な要望を出し合い、後は官僚にまる投げか、政治主導でまとめてくださいと政治家に委ねるような他力本願は避けたい。

医療界では多数ある学会を横断して一つにまとめ上げ、ガイドラインを作成したり厚生労働省に提言したりしている。建築界も利害を調整し、国民の利益のために「質の高い建築・まち」を実現する提言をすることは可能なはずである。民間側にコンソーシアムを立ち上げ、法案を政府と国民に提示してもよいのではないだろうか。提言をまとめたなら、建築界主催でタウン・ミーティングを行って国民の理解を求める努力をすべきである。

これまでに積極的に建築界が国民に日本の国土の理想像を提示してこなかった。司法改革、医療改革が進む中、建築基本法制定を梃子にして建築界も自ら改革を進めてほしい。馬淵大臣が先頭にたって建築基本法制定の旗振り役を演ずる初夢が、政局によって幻にならないように祈るばかりである。



えはら・こういち | 木の建築設計

1962年東京都生まれ。1987年東京理科大学建築学科卒業。
1996年木の建築設計設立